



METROLOGIC INSTRUMENTS, INC.
MetroSelect® シングルライン
設定ガイド

著作権

© 2007 by Metrologic Instruments, Inc. 無断複写・転載を禁じます。本書のいかなる部分も、書評家が書評にて簡潔な一節を引用するか、1976年制定のアメリカ合衆国の著作権法の規定に記載されている以外は、事前の書面による承諾なしに、どのような形式であれ、任意の手段によって無断で複製、転写、保存することはできません。

商標

Metrologic は Metrologic Instruments, Inc. の登録商標です。この文書に記載の製品名は Metrologic Instruments, Inc. または各社の商標または登録商標です。

目次

まえがき	1
バーコードの設定方法	1
シングルコード方式	1
マルチコード方式	2
最初からやり直す場合	2
コードタイプとデコードの規定	3
UPC/EAN	3
Code 128	4
Code 39	4
2 of 5 Code	6
Codabar	9
Code 93	9
Code 11	9
Telepen	10
Plessey Code	10
サプリメントのデコード機能	11
設定可能なコードの読取桁数	12
設定可能なコードの長さ	13
サプリメント	14
RSS バーコードの実行	19
RSS 制限バーコード	20
RSS 拡張バーコード	20
ISBT Code 128 の実行	21
設定モード・バーコード	21
連結設定モード・バーコード	22
予め定義された連結設定モード・バーコード	22
予め定義された連結設定モード・バーコード	23
ユーザー設定の連結設定モード・バーコード	23
通信	25
スキャナの操作	26
設定モードのオプション	26
スキャンバッファ	26
読取一致回数	27
その他のデコード機能	27
同一シンボル・タイムアウト	28
LED オプション	28
ブザー音のオプション	29
ブザー音のオプション	30
データ送信の遅延	31
通信タイムアウト・オプション	32
ホストスキャナのコマンド	33
テストモード	35
プレフィックス/サフィックス	36
ユーザー設定可能なプレフィックス (全データ)	36
ユーザー設定可能な ID キャラクタ (特定コード)	37

目次

スタンダード・プレフィックス・キャラクタ	39
スタンダード・サフィックス・キャラクタ	41
水平冗長検査	42
チェックキャラクタのブロック	42
キャラクタの置換	43
ユーザー設定可能なサフィックス (全データ)	44
特殊なフォーマット	45
コードフォーマット	46
UPC/EAN フォーマット	46
Codabar フォーマット	48
Code 39 フォーマット	49
Code 11 フォーマット	49
Telepen	49
Plessey	50
2 of 5 コードフォーマット	50
RS232	51
パリティの機能	51
ボーレート (通信速度)	51
データ/ストップビット	52
ハードウェアのハンドシェイク	52
ソフトウェアのハンドシェイク	54
その他	55
キーボード	56
キーボード・エミュレーションを有効にする	56
各国/スキャンコード表の選択	56
キーボード/システムタイプ	57
ダム端末の選択	58
特殊キーボード機能	59
インタースキャン・コード遅延	61
コントロールセット	61
OCIA	63
ライトペン・パラメータ	64
細エレメント幅の設定	65
MS9520/9540-00 レーザー・エミュレーション・モード	66
ハンドヘルド・レーザー・エミュレーションモードを有効にする	66
IBM® 46xxの設定	67
IBM ポート	67
IBM 予備コード	67
USB	68
コードバイトの使用法	70
コードバイト 0~9	70
予備コード	71
コードタイプ表	71
ASCII 参照表	72
拡張キーコード参照表	76

目次

MS9520 Voyager® & MS9540 VoyagerCG®シリーズ	78
稼働範囲	78
スタンドスキャン・モード	78
CodeGate®の状態.....	78
レーザー / スキャン・モード	79
同一シンボル・タイムアウト	80
MS9524 & MS9544 VoyagerPDF®シリーズ	81
PDF CodeGate の状態.....	81
MicroPDF および合成コードの取り扱い.....	81
MS9535 VoyagerBT®	83
MS9535-5M VoyagerBT®	85
インベントリー数量バーコード**	87
IS4125 / IS4225 スキャンエンジン	88
その他の機能	89
カスタム・デフォルト	89
シリアルプログラム・モード	90

まえがき

この新しいスキャナには、工場出荷前にデフォルト値のパラメータが設定されています。

多くのホストシステムには、固有のフォーマットとプロトコル要件が設定されています。メトロロジックの製品では、本書の設定バーコードを使用することによって幅広い設定がご利用いただけます。設定が完了したら、スキャナは不揮発性メモリ（NOVRAM）に設定を格納します。電源をオフにすると、NOVRAMは設定を保存します。



アスタリスク（*）のついたバーコードはデフォルト設定です。

波形記号（~）のついたバーコードには「マルチコード方式」による設定が必要です。

バーコードの設定方法

MetroSelect クラスのスキャナでは、2つの方法でバーコード設定ができます。「シングルコード方式」と「マルチコード方式」です。

- ① MS6220 Pulsar®は「マルチコード方式」のみを使用して設定されます。ご注意ください。
- ① MS9540 スキャナを正しく設定するには、CodeGate®オプションを使ってすべての設定コードをスキャンしなければなりません。

シングルコード方式

ほとんどの機能は「シングルコード方式」で有効または無効にすることができます。

1. スキャナの電源を入れます。
2. 適切な機能のバーコードをスキャンします。
3. 設定がNOVRAMに保存されたことを示すマルチトーンの「設定保存」ブザーを確認します。

バーコードの設定方法

- ❗ MS6220 Pulsarは、「マルチコード方式」のみを使用して設定されます。ご注意ください。
- ❗ MS9540 スキャナを正しく設定するには、CodeGate オプションを使ってすべてのプログラミング・コードをスキャンしなければなりません。

マルチコード方式

すべての機能は「マルチコード方式」で有効または無効にすることができます。
波形記号 (~) のついた機能には「マルチコード方式」を使用する必要があります。

1. スキャナの電源を入れます。
2. 「設定開始 / 終了モード」バーコードをスキャンします。(ブザー音 3 回)
3. 適切な機能のバーコードをスキャンします。(ブザー音 1 回)

 再度「設定開始 / 終了モード」バーコードをスキャンする前に複数の機能を有効 / 無効にすることができます。

4. 「設定開始 / 終了モード」バーコード (ブザー音 3 回) をスキャンして、新しい設定を保存します。

 設定の変更を中止するには、開始 / 終了コードをスキャンする前に電源をオフにしてください。

設定モード開始 / 終了



最初からやり直す場合

「デフォルト」バーコードをスキャンしてください。これはすべての設定を消去してスキャナをデフォルトのコミュニケーションプロトコル (初期設定) に戻します。

キーボードウェッジ・インターフェース・スキャナは、キーボードウェッジのデフォルトを読み込みます。

その他のスキャナは RS232 デフォルトを読み込みます。

 Metrologic は OEM のデフォルトを読み込める特別注文の OEM スキャナを製造しています。「メトロロジック・デフォルト」に影響するかどうかは 89 ページに記載しています。

デフォルト



コードタイプとデコードの規定



アスタリスク (*) のついたバーコード記載は工場出荷時の機能設定です。波形記号 (~) のついたバーコードには「マルチコード方式」による設定が必要です。

UPC/EAN



* UPC/EAN を有効にする



UPC/EAN を無効にする



* UPC-A を有効にする



UPC-A を無効にする



* UPC-E を有効にする



UPC-E を無効にする



* EAN-13 を有効にする



EAN-13 を無効にする



* EAN-8 を有効にする



EAN-8 を無効にする

コードタイプとデコードの規定

Code 128



* Code 128 を有効にする



Code 128 を無効にする



UCC/EAN-128 'JC1'コードフォーマットを有効にする：クーポンコード 128 は 16ページを参照してください。



* UCC/EAN-128 'JC1'コードフォーマットを無効にする



<FNC4>Code 128 キャラクタを無視する



* <FNC4>を使用して拡張 ASCII キャラクタを確定する

Code 39



* Code 39 を有効にする



Code 39 を無効にする



Code 39 でMOD 43 チェック・デジットを有効にする：スキャナは有効なModulo 43 チェック・デジットのあるCode 39 バーコードのみスキャンします。



* Code 39 の MOD 43 チェック・デジットを無効にする



Full ASCII Code 39 を有効にする



* Full ASCII Code 39 を無効にする

コードタイプとデコードの規定

Code 39



PARAF (イタリアの医薬品コード) サポートを有効にする : Code 39 バーコードはPARAFフォーマットに変換されます。



* PARAF サポートを無効にする



* PARAF Code のみ許可する



PARAF Code 以外を許可する



TRI-OPTIC Code を有効にする



* TRI-OPTIC Code を無効にする



* スタンダード Code 39 の構成を使用する



5 Bar Multiples のない Code 39 を試す



ITF/Code 39 フィルタを有効にする



* ITF/Code 39 フィルタを無効にする



Self-Service Library Code 39 を有効にする



* Self-Service Library Code 39 を無効にする



MOD 43 チェック・デジットを送信する : Self-Service Library Code 39 つき



* MOD 43 チェック・デジットを送信しない : Self-Service Library Code 39 つき

コードタイプとデコードの規定

Code 39



Code 39 代替リファレンス比較チェックを有効にする：2 から 1 値（太から細）のエレメント幅要件より低いエレメントを支援します。



* ノーマルの Code 39 リファレンス比較チェック

2 of 5 Code



* Interleaved 2 of 5 (ITF) を有効にする



Interleaved 2 of 5 (ITF) を無効にする



ITFのMOD 10 チェックを有効にする：スキャナはModulo 10 チェック・デジット付きのInterleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみをスキャンします。



* ITF の MOD 10 チェックを無効にする



ITF のヌル・キャラクタを許可する



* ITF のヌル・キャラクタを許可しない



~ ITF読取桁数固定 1：最初のITF読取桁数を固定するには、このバーコードと、70 ページの適切なコードバイトをスキャンしてください。



~ ITF読取桁数固定 2：2 番目のITF読取桁数を固定するには、このバーコードと、70 ページの適切なコードバイトをスキャンしてください。



~ ITF最小読取桁数：ITFの最小読取桁数を指定するには、70 ページの適切なコードバイトをスキャンしてください。

コードタイプとデコードの規定

2 of 5 Code



代替ITF 1st バー・リファレンス



* ノーマルITF 1st バー・リファレンス



スタンダード 2 of 5 を有効にする



* スタンダード 2 of 5 を無効にする



~ スタンダード 2 of 5 の読取桁数固定：読取桁数の固定には、このバーコードと70 ページの適切なコードバイトをスキャンしてください。



Matrix 2 of 5 を有効にする



* Matrix 2 of 5 を無効にする



* Matrix 2 of 5 チェック・デジット要件を有効にする



Matrix 2 of 5 チェック・デジット要件を無効にする



15桁 Airline 2 of 5 を有効にする



* 15桁 Airline 2 of 5 を無効にする



13桁 Airline 2 of 5 を有効にする



* 13桁 Airline 2 of 5 を無効にする

コードタイプとデコードの規定

2 of 5 Code



Hong Kong 2 of 5 を有効にする



* Hong Kong 2 of 5 を無効にする



Follett ITF を有効にする



* Follett ITF を無効にする

コードタイプとデコードの規定

Codabar



* Codabar を有効にする



Codabar を無効にする



デュアルフィールド Codabar を有効にする



* デュアルフィールド Codabar を無効にする

Code 93



* Code 93 を有効にする



Code 93 を無効にする

Code 11



Code 11 を有効にする



* Code 11 を無効にする



* Code 11 チェック・デジットを1つチェックする



Code 11 チェック・デジットを2つチェックする



* Code 11 チェック・デジットを2つチェックしない



読取桁数が10桁以上の場合、Code 11 チェック・デジットを2つチェックする

コードタイプとデコードの規定

Telepen



Telepen を有効にする



* Telepen を無効にする



ALPHA Telepen を有効にする



* ALPHA Telepen を無効にする

Plessey Code



MSI Plessey を有効にする



* MSI Plessey を無効にする



* MSI Plesseyチェック・デジットなし：Plesseyバーコードはチェック・デジットをテストしません。



MSI Plessey MOD 10/10 チェック・デジットを有効にする：MSI Plesseyバーコードは2桁のModulo 10 チェック・デジットをテストします。



* MSI Plessey MOD 10 チェック・デジットを有効にする：MSI Plesseyバーコードは1桁のModulo 10 チェック・デジットをテストします。



UK Plessey を有効にする



* UK Plessey を無効にする



UK Plessey の A から X の変換を有効にする



* UK Plessey の A から X の変換を無効にする

コードタイプとデコードの規定

Plessey Code



* スタンダード Plessey ストップキャラクタ



不良な Plessey ストップキャラクタを許可する

サブリメントのデコード機能



ダブルボーダー要求 / 広い文字間余白を有効にする



* ダブルボーダー要求 / 広い文字間余白を無効にする



スモールボーダー要求を有効にする



* スモールボーダーを無効にする



~ 最小読取桁数：シングルラインのデフォルトは3桁。このコードを70ページの適切なコードバイトに組み合わせ、UPC/EANバーコード以外の最小読取桁数を指定します。



~ 読取桁数固定：このコードを適切なコードバイトに組み合わせ、読み取りできるバーコードの桁数を固定します。



バー&スペースカウントの Modulus 8 フィルタを有効にする



* バー&スペースカウントの Modulus 8 フィルタを無効にする



Code 39 不良ボーダーを許可する



* Code 39 不良ボーダーを無効にする

コードタイプとデコードの規定

設定可能なコードの読取桁数

バーコードのタイプと読取桁数を最大7種類まで設定できます。コードタイプを指定するとロックの長さが割り当てられます。設定モードで、次の事項を行います。

1. 「読取コード固定#1：桁数」のバーコードをスキャンします。
2. コードの桁数を示す3種類のコードバイト（70ページ参照）をスキャンします。
3. 「読取コード固定#1：コードタイプ」のバーコードに適合するコードタイプをスキャンします。
4. コードタイプを表す3つのコードバイトをスキャンします。

読取桁数指定#2から#7までこのプロセスを繰り返してください。



~読取コード固定#1：桁数



~読取コード固定#1：コードタイプ



~読取コード固定#2：桁数



~読取コード固定#2：コードタイプ



~読取コード固定#3：桁数



~読取コード固定#3：コードタイプ



~読取コード固定#4：桁数



~読取コード固定#4：コードタイプ



~読取コード固定#5：桁数



~読取コード固定#5：コードタイプ

コードタイプとデコードの規定

設定可能なコードの長さ



~ 読取コード固定#6 : 桁数



~ 読取コード固定#6 : コードタイプ



~ 読取コード固定#7 : 桁数



~ 読取コード固定#7 : コードタイプ



日本語マルチフィールドを有効にする



日本語マルチフィールドを無効にする

サブリメント



2 桁のサブリメントを有効にする



* 2 桁のサブリメントを無効にする



* 2 桁の 2 回一致読取を有効にする：スキャナはバーコードおよび 2 桁のサブリメントを 2 度スキャンしてからデータを受け付けます。



2 桁の 2 回一致読取を無効にする



5 桁のサブリメントを有効にする



* 5 桁のサブリメントを無効にする



5 桁の 2 回一致読取を有効にする：スキャナはバーコードおよび 5 桁のサブリメントを 2 度スキャンしてからデータを受け付けます。



* 5 桁の 2 回一致読取を無効にする



サブリメントの必要あり：スキャンされたUPC/EANラベルはすべてサブリメントが必要です。



* サブリメントの必要なし



Remoteサブリメント要求を有効にする：MS9500、MS6200 は対応していません。



* Remoteサブリメント要求を無効にする：MS9500、MS6200 は対応していません。



Bookland (979) サブリメント要求を有効にする



* Bookland (979) サブリメント要求を無効にする

サブリメント



Bookland (978) サブリメント要求を有効にする



* Bookland (978) サブリメント要求を無効にする



977 (2桁) サブリメント要求を有効にする : EAN-13 codeが977で始まる場合、スキャナは2桁のサブリメントスキャンを要求します。



* 977 (2桁) サブリメント要求を無効にする



378/379 French サブリメント要求を有効にする



* 378/379 French サブリメント要求を無効にする



414/419 German Bookland サブリメント要求を有効にする



* 414/419 German Bookland サブリメント要求を無効にする



434/439 German サブリメント要求を有効にする



* 434/439 German サブリメント要求を無効にする



システム 2 のサブリメント要求を有効にする



* # システム 2 のサブリメント要求を無効にする



UPC # System 5 のサブリメント要求を有効にする



* UPC # System 5 のサブリメント要求を無効にする

サブリメント



* 37x、43x または UPC # System 5 の 2 桁のサブリメントを有効にする



37x、43x または UPC # System 5 の 2 桁のサブリメントを無効にする



* 37x、43x または UPC # System 5 の 5 桁のサブリメントを有効にする



37x、43x または UPC # System 5 の 5 桁のサブリメントを無効にする



クーポンコード 128 を有効にする



* クーポンコード 128 を無効にする



Code 128 'JC1' 拡張コードフォーマットを有効にする：スキャナはクーポンコードのCode 128 部分の始めに'JC1'を送信します。



* Code 128 'JC1' 拡張コードフォーマットを無効にする



* Code 128 グループセパレータを有効にする：クーポンコード 128 codeとともにGS (1DH) が送信されます。



Code 128 グループセパレータを無効にする



400 ミリ秒のサブリメント検索：主要なUPC/EANバーコードがスキャンされた後、スキャナはサブリメントの検索に 400 ミリ秒を割り当てます。



200 ミリ秒のサブリメント検索：主要なUPC/EANバーコードがスキャンされた後、スキャナはサブリメントの検索に 200 ミリ秒を割り当てます。



* 100 ミリ秒のサブリメント検索：主要なUPC/EANバーコードがスキャンされた後、スキャナはサブリメントの検索に 100 ミリ秒を割り当てます。

サブリメント



サブリメントつきコード ID を有効にする



* サブリメントつきコード ID を無効にする



* サブリメントにつきブザー音 1 回鳴らす



サブリメントにつきブザー音 2 回鳴らす



ISBNチェック・デジットの送信を有効にする：機種によってはご利用いただけません。



ISBN チェック・デジットの送信を無効にする



BooklandからISBNの変換を有効にする：機種によってはご利用いただけません。



* Bookland から ISBN の変換を無効にする



ISBN の再フォーマットを有効にする



* ISBN の再フォーマットを無効にする



Bookland から ISBN 979 の変換を有効にする



* Bookland から ISBN 979 の変換を無効にする



* ノーマル ISBN の再フォーマット



13桁 ISBN の再フォーマット

サブリメント



CodeGateボタンが押されたときにサブリメントを無効にする：MS9540 スキャナのみご利用いただけます。スタンドの内外でスタンダードCode Gateが非アクティブであることが必要です。



* CodeGateはサブリメントのスキャンに影響しない - MS9540 スキャナのみご利用いただけます。



EAN-13 Code がスキャンされた場合にサブリメントのチェックを行わない



* 通常のサブリメントチェック

RSS バーコードの実行

メトロロジックのMS9520 Voyager[®]およびMS9540 VoyagerCG[®]レーザースキャナは、ソフトウェア#14810以降のバージョンが搭載されている場合、RSSタイプコードをスキャンするように設定できます。

 XT キーボードはソフトウェア#14810以降のバージョンの標準ソフトウェアリリースでは対応していません。アプリケーションにXTキーボードが必要な場合、ソフトウェア#14806以前のバージョンが必要です。詳しくはメトロロジック・カスタマーサービスの担当者に(1-800-ID-METRO)にご連絡ください。



ダブルボーダー要求：RSSバーコードをスキャンする場合、大きなスペースがしばしば見受けられるため、ダブルボーダー要件を有効にすることをお勧めします。



RSS 14 を有効にする



* RSS 14 を無効にする



* RSS 14 チェック・デジットを送信する



RSS 14 チェック・デジットを送信しない



* RSS 14 アプリケーションIDを送信する：アプリケーションID「01」がデフォルトで送信されます。



RSS 14 アプリケーション ID を送信しない



* RSS 14 シンボルIDを送信する：シンボルID「je0」がデフォルトで送信されます。



RSS 14 シンボルを送信しない

RSS バーコードの実行

RSS 制限バーコード



RSS 制限を有効にする



* RSS 制限を無効にする



* RSS 制限 CD を送信する



RSS 制限 CD を送信しない



* RSS制限アプリケーションIDを送信する：アプリケーションID「01」がデフォルトで送信されます。



RSS 制限アプリケーション ID を送信しない



* RSS制限シンボルIDを送信する：シンボルID「je0」がデフォルトで送信されます。



RSS 制限シンボル ID を送信しない

RSS 拡張バーコード



RSS 拡張バーコードを有効にする



* RSS 拡張バーコードを無効にする



* RSS拡張シンボルIDを送信する：シンボルID「je0」がデフォルトで送信されます。



RSS 拡張シンボル ID を送信しない

ISBT Code 128 の実行

設定モード・バーコード



ISBT Code 128 を有効にする



ISBT Code 128 を無効にする

以下のバーコードは ISBT-128 仕様の 3.5.2 章に記載されている特別な送信モードを有効 / 無効にするために使われます。この出力方法によってユーザーは Code-128 のチェック・デジットの精度を自分で確認できます。



ISBT 特別送信を有効にする



ISBT 特別送信を無効にする

以下のバーコードを使用して ISBT Code 128 のデータ ID の送信を無効にできます。このオプションが選択された場合、スキャンされた ISBT バーコードにドネーション ID ナンバーが含まれていないと、最初の 2 つのデータキャラクタがデータストリーム (ID キャラクタ) から除去されます。この場合、最初の ID キャラクタのみがドネーション ID ナンバーから除去されます。2 番目のキャラクタはノーマルデータとみなされます。



ISBT ID を送信しない



* ISBT ID を送信する

以下のバーコードは、チェック・デジットがフラッグデジットに含まれるとき、ドネーション ID ナンバーのフラッグデジットから Mode 37 の 2 チェック・デジットを変換、送信するために使用されます。ドネーション ID ナンバーの送信は、単一のチェック・サムキャラクタに変換された最後の 2 桁を除き同一です。



フラッグデジットを Mod 37、2 CD に変換する



* ノーマル・フラッグデジットの送信

ISBT Code 128 の実行

連結設定モード・バーコード

MS9500 シリーズのみ対応しています。

以下のバーコードは、ISBT 連結シーケンスの 2 番目のバーコードを検索するための可変時間要件の設定に使用されます。



100 ミリ秒の連結シーケンス検索



200 ミリ秒の連結シーケンス検索



300 ミリ秒の連結シーケンス検索



400 ミリ秒の連結シーケンス検索



500 ミリ秒の連結シーケンス検索



600 ミリ秒の連結シーケンス検索



700 ミリ秒の連結シーケンス検索

予め定義された連結設定モード・バーコード

MS9500 シリーズのみ対応しています。

以下のうち、最初の 2 つのバーコードは、予め定義された連結シーケンスを有効 / 無効にするために使用できます。残りのバーコードは、特定事項が可能な連結シーケンスを有効にするためのもので、連結を可能にするためには必要ではありません。予め定義された連結シーケンスを無効にするためにも、再び有効にするためにも使用できます。



予め定義された連結シーケンスを有効にする



予め定義された連結シーケンスを無効にする



ドネーション ID ナンバー + AB0/Rh (D) 血液型 =á + =% 連結



ドネーション ID ナンバー + ドナー ID ナンバー =á + &; 連結

ISBT Code 128 の実行

予め定義された連結設定モード・バーコード



ドネーション ID ナンバー+ 機密ユニット除外状態 =á + &! 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 1)
=< + => 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 2)
=< + &> 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 3)
&< + => 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 4)
&< + &> 連結

ユーザー設定の連結設定モード・バーコード

MS9500 シリーズのみ対応しています。

以下のうち、最初の 2 つのバーコードは、ユーザー定義された連結シーケンスを有効 / 無効にするために使用します。残りのバーコードは、連結シーケンスで使用されるユーザー定義の ID を入力するために使用します。これらのバーコードでは、最初に設定モードに入る必要があります。それから適切なコードをスキャンし、その後、ふさわしい ID を入力するコードバイトの使用規定に従ってください。



ユーザー定義のシーケンスを有効にする



ユーザー定義のシーケンスを無効にする



左 1 桁目の ID



左 2 桁目の ID



右 1 桁目の ID



右 2 桁目の ID

ISBT Code 128 の実行

MS9500 シリーズのみ対応しています。

以下の例は、ユーザー定義の ISBT ID の設定方法を示しています。

左側の ID は ISBT 定義のドネーション ID ナンバー「=G」で、右側の ID は各国ごとの ID「&a」であると仮定します。

1. 「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンします。
2. 「左 1 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
3. (Code Byte 0) + (Code Byte 6) + (Code Byte 1) をスキャンします。
4. 「左 2 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
5. (Code Byte 0) + (Code Byte 7) + (Code Byte 1) をスキャンします。
6. 「右 1 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
7. (Code Byte 0) + (Code Byte 3) + (Code Byte 8) をスキャンします。
8. 「右 2 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
9. (Code Byte 0) + (Code Byte 9) + (Code Byte 7) をスキャンします。
10. 「ユーザー定義のシーケンスバーコードを有効にする」をスキャンします。
11. 「ISBT バーコードを有効にする」をスキャンします。
12. 「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンします。

これで、適切な ID がスキャナに設定されました。ISBT とユーザー定義の連結がいずれも有効になったので、それらの ID を含む ISBT 128 バーコードを続けてスキャンすると、それらが連結されます。

ユーザー定義連結シーケンスの設定に使用できる別の方法が ISBT 仕様の 4.8.1 章に記載されています。前述の例を使い、ID を単一の設定モード・バーコードに設定できます。以下のバーコードはユーザー定義の連結を有効/無効にするのに使用できます。

(左、=G) + (右、&a) を有効にする



(左、=G) + (右、&a) を無効にする



以下の設定モード・バーコードは、メトロロジックの設定モード・バーコードの標準セットとは異なり、シングルコードの設定モードでのみ使用できます。マルチコードの設定モードでは、以下のバーコードは認識されません。

2つの連結シーケンスが常時有効になります。一つは予め定義されたシーケンスで、もう一つはユーザー定義のシーケンスです。コードの選択と ISBT Code-128 の連結は、同時に使用できません。両機能は同じ内部リソースを使用するため、相互排他的に機能します。

通信



ライトペン/Wand通信を有効にする：スキャナがライトペンの代わりに使用される場合、このオプションを使用します。



* **RS232 を有効にする**：スキャナはRS232 +/- 12Vのシリアル出力となります。



キーボードウェッジのデフォルトを読み込む：ノーマルまたはスタンドアローンのウェッジモードを選択する前にこのコードをスキャンしてください。



スタンドアローン・キーボードスキャナを有効にする：外部キーボードなしでスキャナを使用できます。



キーボードウェッジ・エミュレーションを有効にする：スキャナがスキャンしたバーコードデータを、PCキーボードスキャンコードデータに変換してキーボード・エミュレーションする場合、これを選択します。



OCIAデフォルトを読み込む：「OCIA出力を有効にする」を選択する前にこのコードをスキャンしてください。



OCIA出力を有効にする：通信要件がOCIA（光結合インターフェース）の場合、このオプションを選択します。これはホストとドッキングしているシリアルインターフェースです。



IBM 46xx デフォルトを読み込む



IBM 46xx 通信を有効にする：IBM 46xx SIOC/RS485 通信の場合、このオプションを選択します。このオプションに対応していないスキャナもあるので、正しいインターフェース・ボードが必要です。



非通信モードを有効にする：スキャナがホストデバイスとつながっていない場合、このオプションを選択します。



予備



予備

スキャナの操作

設定モードのオプション



電源オンで設定モードを許可する：スキャナは、バーコードをスキャンする前にもみMetroSetモードに入ります。



* **常時設定モードを許可する**：常時、MetroSet設定を許可します。



電源オンで設定コードを許可する：電源をオンにしてから製品コードをスキャンすると、スキャナは設定バーコードのスキャンを許可しません。



* **常時設定コードを許可する**：常時、設定バーコードのスキャンを許可します。

スキャンバッファ



* **1 スキャンバッファ**：スキャナはスキャンフィールドのバーコードを1つスキャンし、同一シンボル・タイムアウトの時間内はそのバーコードがスキャンフィールドから除去されるまで再スキャンしません。



2 スキャンバッファ：スキャナはスキャンフィールドのバーコードを、一度に1つずつ、2つスキャンします。その2つのバーコードは同一シンボル・タイムアウトの時間内はスキャンフィールドから除去されるまで再スキャンされません。



3 スキャンバッファ：2 スキャンバッファと同じ機能で、スキャンフィールドに3つのバーコードがある場合です。



4 スキャンバッファ：2 スキャンバッファと同じ機能で、スキャンフィールドに4つのバーコードがある場合です。

スキャナの操作

読取一致回数



* 2回一致読取無効：スキャン成功とみなすためにバーコードを1回のみ読み取ります。



2回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの2連続読取が必要となります。



3回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの3連続読取が必要となります。



4回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの4連続読取が必要となります。



5回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの5連続読取が必要となります。



6回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの6連続読取が必要となります。



7回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの7連続読取が必要となります。



8回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの8連続読取が必要となります。

その他のデコード機能



* 同一シンボルのチェック（オプション）：「新しい」バーコードと認識させるためには、次のバーコードとの間に異なるキャラクタが1つ必要です。



同一シンボルのチェック（ノーマル）：「新しい」バーコードと認識させるためには、次のバーコードとの間に異なるキャラクタが3つ必要です。

スキャナの操作

同一シンボル・タイムアウト

バーコードがスキャンフィールドから除去されてから再スキャンされるまでの時間の長さは、50 ミリ秒から 6350 ミリ秒（6.35 秒）単位でユーザー設定ができます。

MS9500、IS4125 をご使用の場合は、80ページをご覧ください。



~ 可変の同一シンボル・タイムアウト：同一シンボル・タイムアウト時間を設定するには、マルチコード方式にした上で、このバーコードと70 ページのコードバイトシーケンスをスキャンします。この機能はMS9500 およびIS4125 では対応していません。詳細は80ページを参照してください。



同一シンボル・タイムアウトなし



同一シンボル・タイムアウトが無限：スキャナは同じバーコードを繰り返しスキャンしません。このオプションはバーコードの再スキャン時のタイムアウトを無視します。



2 秒のタイムアウトを有効にする：2 秒間反応がなければ、レーザーは停止し、CodeGateボタンが押されるまで停止状態を維持します。この機能はMS5145 のみ使用できます。



2 秒のタイムアウトを無効にする

LED オプション



再スキャンが可能になると緑色のLEDが点滅する：同一シンボル・タイムアウトが経過したことを示します。



* 再スキャンが可能になっても緑色の LED は点滅しない



LED機能の逆表示：赤色 = レーザーがオン、緑色 = 読み込み成功



* LED機能の通常表示：緑色 = レーザーがオン、赤色 = 読み込み成功

スキャナの操作

ブザー音のオプション



* 通常の音調



音調 1



音調 2



音調 3



音調 4



音調 5



音調 6



ブザー音なし



* サプリメントがあればブザー音 1 回



サプリメントがあればブザー音 2 回



短いブザー音を有効にする



* 短いブザー音を無効にする



ファントーンを有効にする：このバーコードをスキャンし、次に、上記の音調 1～6 のバーコードを 1 つスキャンします。



* ファントーンを無効にする

スキャナの操作

ブザー音のオプション



BELコマンドでブザー音発生：スキャナはホストからBELキャラクタを受信するとブザーを鳴らします。BELキャラクタの前 200 ミリ秒以内に数字が送信されると、スキャナはその回数だけブザーを鳴らします。



* BEL コマンドを無視する



ブザー音鳴動中、ライトペンの切り替えを有効にする：デコードが成功した場合、スキャナはブザーを鳴らし、ライトペン・データラインを切り替えます。これは読み込み成功の指標となります。



* ブザー音鳴動中、ライトペンの切り替えを無効にする



パススルーを有効にする



パススルーを無効にする



パススルー・データでブザーを鳴らす



* パススルー・データでブザーを鳴らさない



記録カウントキャプチャを有効にする



* 記録カウントキャプチャなし



記録カウントを送信する

スキャナの操作

データ送信の遅延

以下のコードにより、スキャナからホストへデータを送信する際のデータキャラクタ間の送信間隔を設定することができます。これは、スキャナのホスト入力バッファのオーバーフローを予防するのに役立ちます。



* 1 ミリ秒のキャラクタ間の遅延



10 ミリ秒のキャラクタ間の遅延



25 ミリ秒のキャラクタ間の遅延



~ 可変ミリ秒のキャラクタ間遅延：このバーコードと70 ページのコードバイトシーケンスをスキャンして、ホストシステムに送信するキャラクタ間の遅延（1 から 255 ミリ秒の範囲）を設定します。



キャラクタ間の遅延なし



~ 可変記録間の遅延



記録間の遅延の間レーザーをオフにする



* 記録間の遅延の間レーザーをオンにする

スキャナの操作

通信タイムアウト・オプション



通信タイムアウトを有効にする



* 通信タイムアウトを無効にする



* 送信前にブザーを鳴らす



送信後にブザーを鳴らす



~可変通信タイムアウト



* デフォルトの通信タイムアウト (2 秒)



短い通信タイムアウト (1 秒)



長い通信タイムアウト (4 秒)



タイムアウト時にブザー3回



* タイムアウト時にブザーなし



タイムアウト時にエラー音を鳴らす



* タイムアウト時にエラー音なし

スキャナの操作

ホストスキャナのコマンド



D/E無効コマンドを有効にする：ホストデバイスからASCII「D」を受信するとスキャンが無効になります。ASCII「E」を受信するとスキャンが有効になります。



* D/E 無効を無効にする



Z/RタイプのD/Eシミュレーションを有効にする：ホストデバイスからASCII「Z」を受信するとスキャンが無効になります。ASCII「R」を受信するとスキャンが有効になります。



* Z/R タイプの D/E シミュレーションなし



F/Lレーザーコマンドを有効にする：スキャナはASCII「F」を受信するとレーザーを停止します。ASCII「L」を受信するとレーザーを作動させます。



* F/L レーザーコマンドを無効にする



DTR スキャン不可を使用する：スキャナはスキャンを許可するかどうか決定するため DTR 入力を監視します。A +12V「アクティブ」レベルはデコードを有効にします。A -12V「非アクティブ」レベルはデコードを無効にします。



* DTRスキャン不可を使用しない：DTR入力を監視しません。



DC2 キャラクタで稼働する：DC2 キャラクタ (^R、124)を受信するとスキャンを開始します。



* DC2 キャラクタで稼働しない



RS232 経由で「I」(49H)を受信すると「METROLOGIC」を送信する



* RS232 経由で「I」(49H)を受信しても「METROLOGIC」を送信しない

スキャナの操作

ホストスキャナのコマンド



RS232 経由で「i」（69H）を受信するとスキャナIDバイトを送信する：IDバイトは3バイト（例：0、0、1）で送信されます。



* RS232 経由で「i」（69H）を受信してもスキャナ ID バイトを送信しない



CD2 が稼働すると「NO READ」を送信する



* CD2 が稼働しても「NO READ」を送信しない



「NO READ」送信中、緑色の LED を点灯しない



* 「NO READ」送信中、緑色の LED を点灯する



シリアルナンバーを送信する



モーターのオン/オフコマンドを有効にする



* モーターのオン/オフコマンドを無効にする



RS232 受信を無効にする



ノーマルの RS232 受信



Banco 制御モードを有効にする



Banco 制御モードを無効にする

スキャナの操作

ホストスキャナのコマンド



バーコード送信にプロトコルのプレフィックスおよびサフィックスを使用する



* バーコード送信にプロトコルのプレフィックスおよびサフィックスを使用しない



No ReadでRTSを有効にする：NOREADが発生すると、スキャナはRTSラインを20ミリ秒間稼働させます。RTSの稼働時間は10ミリ秒刻みでアドレス199に6~0ビットで読み込むことができる



* No Read で RTS を無効にする

テストモード



スキャナビリティ・オン：このオプションはスキャナの能力を確認するテストモードです。メトロロジックの担当者に指示されない限り有効にしないでください。



* スキャナビリティ・オフ



スキャンカウントモード・オン：スキャナはスキャンカウント・テストモードに入り、スキャナのファームウェアナンバーがホストに送信されます。メトロロジックの担当者に指示されない限り有効にしないでください。



* スキャンカウントモード・オフ



保存したインターフェースで起動：メトロロジックの担当者に指示されない限り有効にしないでください。



* ボードインターフェースで起動：メトロロジックの担当者に指示されない限り有効にしないでください。

プレフィックス/サフィックス

 以下の機能を設定する前に「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンしてください。(2 ページのマルチコード方式参照)

ユーザー設定可能なプレフィックス(全データ)



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #1**: 1つのプレフィックスIDをデータ送信時に追加してホストへ送信します。このコードとともに、任意のキャラクタを表すコードバイトシーケンス(70ページ)を使用してください。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #2**: 2番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #3**: 3番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #4**: 4番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #5**: 5番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #6**: 6番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #7**: 7番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



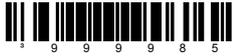
~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #8**: 8番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #9**: 9番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



~ **設定可能なプレフィックス・キャラクタ #10**: 10番目のプレフィックス・キャラクタを設定します。



* **ユーザー設定可能なプレフィックスをすべてクリアする**

プレフィックス/サフィックス

ユーザー設定可能な ID キャラクタ (特定コード)



* 設定可能なコードIDバイトをプレフィックスとして使用する：ユーザー設定可能な特定コードIDバイトがデータの前に送信されます。プレフィックスが使われている場合、ユーザー設定可能なサフィックスは使用できません。



設定可能なコードIDバイトをサフィックスとして使用する：ユーザー設定可能な特定コードIDバイトがデータの後に送信される。サフィックスが使われている場合、ユーザー設定可能なプレフィックスは使用できません。

‡ 「設定モード開始/終了」バーコードを読み取ってから、以下のバーコードをスキャンし、続いてそのバーコードタイプと関連する固有の ID キャラクタを示す70 ページの3 コードバイト・バーコードをスキャンします。



~設定可能な UPC-A ID ‡



~設定可能な UPC-E ID ‡



~設定可能な EAN-8 ID ‡



~設定可能な EAN-13 ID ‡



~設定可能な 39 ID ‡



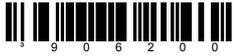
~設定可能な 128 ID ‡



~設定可能な 93 ID ‡



~設定可能な 11 ID ‡



~設定可能な Telepen ID ‡

プレフィックス/サフィックス

ユーザー設定可能な ID キャラクタ (特定コード)

‡ 「設定モード開始/終了」バーコードを読み取ってから、以下のバーコードをスキャンし、続いてそのバーコードタイプに関連する固有の ID キャラクタを示す70 ページの3 コードバイト・バーコードをスキャンします。



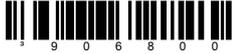
~設定可能な TRI-OPTIC ID ‡



~設定可能な Standard 2 of 5 ID ‡



~設定可能な Interleaved 2 of 5 ID ‡



~設定可能な Matrix 2 of 5 ID ‡



~設定可能な Airline 2 of 5 ID ‡



~設定可能な MSI Plessey ID ‡



~設定可能な UK Plessey ID ‡



~設定可能な Codabar ID ‡



* 設定可能な特定コードIDをすべてクリアする：既に認識された固有のIDキャラクタをすべてクリアします。



Teraoka ID を有効にする



* Teraoka ID を無効にする



Taiwan 7-11 ID を有効にする



* Taiwan 7-11 ID を無効にする

プレフィックス/サフィックス

スタンダード・プレフィックス・キャラクタ



STXプレフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの前にStart of TeXt (ASCII 02H)を送信します。



* STX プレフィックスを無効にする



Rochford-Thomson モードを有効にする



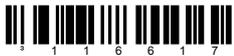
* Rochford-Thomson モード無効にする



AIM ID キャラクタを有効にする



* AIM ID キャラクタを無効にする



UPCプレフィックスIDを有効にする：スキャナはUPC/EANバーコードの前にプレフィックスを送信します。送信されるプレフィックスはA (UPC-A)、E0 (UPC-E)、F (EAN-13)、FF (EAN-8)です。



* UPC プレフィックス ID を無効にする



NCRプレフィックスIDを有効にする：スキャナは以下のコードタイプの前にプレフィックスを送信します。送信されるプレフィックスは以下の通りです。A (UPC-A)、E0 (UPC-E)、FF (EAN-8)、F (EAN 13)、B1 (Code 39) B2 (ITF)、B3 (Code 128 およびその他)



* NCR プレフィックス ID を無効にする



NCR プレフィックス・キャラクタを有効にする



Nixdorf IDキャラクタを有効にする：このオプションは多くのSiemen/Nixdorfレジスター用の各バーコードの前にコードIDを送信します。



* Nixdorf ID キャラクタを無効にする

プレフィックス/サフィックス

スタンダード・プレフィックス・キャラクタ



SANYO ID キャラクタを有効にする



* SANYO ID キャラクタを無効にする



メーカーIDプレフィックスを有効にする：すべてのバーコードデータの前に「METROLOGIC」を送信します。



* メーカーID プレフィックスを無効にする



「C」プレフィックスを有効にする



* 「C」プレフィックスを無効にする



UPC/EAN の「\$」プレフィックス ID を有効にする



* UPC/EAN の「\$」プレフィックス ID を無効にする



TABプレフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの前にTAB (ASCII 09H) を送信します。



* TAB プレフィックスを無効にする



SNI Beetle モードを有効にする



* SNI Beetle モードを無効にする



Cipher 1021 ID を有効にする



* Cipher 1021 ID を無効にする

プレフィックス/サフィックス

スタンダード・サフィックス・キャラクタ



* **CRサフィックスを有効にする**：スキャナは各バーコードの後にキャリッジ・リターンを送信します。



CR サフィックスを無効にする



* **LFサフィックスを有効にする**：スキャナは各バーコードの後にラインフィードを送信します。キーボードウェッジ・デフォルトが読み込まれているときは無効になります。



LF サフィックスを無効にする



TABサフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの後にTAB (ASCII 09H) を送信します。



* **TAB サフィックスを無効にする**



ETXサフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの日付の後にEnd of TeXt (ASCII 03H) を送信します。



* **ETX サフィックスを無効にする**



UPCサフィックスIDを有効にする：スキャナはUPC/EANバーコードの後にサフィックスを送信します。送信されるサフィックスはA (UPC-A)、E (UPC-E)、F (EAN-13)、F (EAN-8) です。



* **UPC サフィックス ID を無効にする**



NCR サフィックス・キャラクタを有効にする



Tec 7-11 ID を有効にする



* **Tec 7-11 ID を無効にする**

プレフィックス/サフィックス

水平冗長検査

水平冗長検査 (LRC : Longitudinal Redundancy Check) は、データキャラクタのシーケンスを計算するエラーチェックキャラクタです。チェックされるキャラクタは XOR (排他的論理和) によって決定され、初期値 00H から開始されます。

その結果、「LRC byte」がデータストリームの後に送信され、受信側の PC に情報が正しく伝わったかどうか決定するために「LRC byte」が使われます。スキャナの場合、XOR はパリティビット (PBIT) を追加する前に行われます。

LRC が有効の場合、スキャナのデフォルトでは、送信される情報の 2 番目のバイトから LRC が開始されます。オプションとして、送信される最初のバイトで計算を開始することもできます。



LRC計算の送信を有効にする：スキャナはバーコードの後にLRCチェックキャラクタに出力します。



* LRC 計算の送信を無効にする



* 最初のバイトでLRCを開始する：スキャナは最初のキャラクタからLRCチェック・デジットを計算します。



2 番目のバイトでLRCを開始する：スキャナは 2 番目のキャラクタからLRCチェック・デジットを計算します。

チェックキャラクタのブロック



* NCR BCC を有効にする



NCR BCC を無効にする

キャラクタの置換

キャラクタの置換は以下の通りです。

1. 2 ページの「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンします。
2. コードが置換されるキャラクタをスキャンします。（下記参照）
3. 置換されるキャラクタの ASCII コードバイト値をスキャンします。（このマニュアルの「コードバイト使用方法」の章の ASCII 参照表を参照）
4. 置換するキャラクタのバーコードをスキャンします。（下記参照）
5. 置換するキャラクタの ASCII コードバイト値をスキャンします。
6. 2 ページの「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンします。



~ 置換するキャラクタ



~ 置換後のキャラクタ



置換なし

プレフィックス/サフィックス

ユーザー設定可能なサフィックス (全データ)

注意：この機能を試す前に「設定モード開始/終了」をスキャンしてください。また、2 ページのマルチコード方式を参照してください。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #1**：1つのサフィックスIDをデータ送信時に追加送信します。このコードとともに、任意のキャラクタを表す70 ページの3コードバイトシーケンスを使用してください。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #2**：2番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #3**：3番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #4**：4番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #5**：5番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #6**：6番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #7**：7番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #8**：8番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #9**：9番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



～ **設定可能なサフィックス・キャラクタ #10**：10番目のサフィックス・キャラクタを設定します。



* **ユーザー設定可能なサフィックスをすべてクリアする**

プレフィックス/サフィックス

特殊なフォーマット



SINEKO モードを有効にする



* SINEKO モードを無効にする



Newcode フォーマットモード A を有効にする



* Newcode フォーマットモード A を無効にする



Newcode フォーマットモード B を有効にする



* Newcode フォーマットモード B を無効にする



先頭の 0 をすべて削除する



* 先頭の 0 を削除しない



MS951 CAPS Lock を有効にする



* MS951 CAPS Lock を無効にする



HCA 解析を有効にする



HCA 解析を無効にする

コードフォーマット

UPC/EAN フォーマット



* UPC-A チェック・デジットを送信する



UPC-A チェック・デジットを送信しない



UPC-E チェック・デジットを送信する



* UPC-E チェック・デジットを送信しない



UPC-Eを12桁に拡張する：UPC-Eバーコードを12桁相当のUPC-Aバーコードに拡張します。



* UPC-E を12桁に拡張しない



* 拡張 UPC E でナンバーシステムを送る



拡張 UPC E でナンバーシステムを送らない



GTIN フォーマットを有効にする



* GTIN フォーマットを無効にする



UPC-AをEAN-13に変換する：スキャナはバーコードの前に先頭「0」を送信してUPC-AをEAN-13に変換します。



* UPC-A を EAN-13 に変換しない

コードフォーマット

UPC/EAN フォーマット



UPC-Eに先頭「0」を送信する：このオプションは各UPC-Eバーコードの前に「0」を送信します。



* UPC-E に先頭「0」を送信しない



EAN-8 をEAN-13 に変換する：スキャナはバーコードの前に5つの「0」を送信してEAN-8をEAN-13に変換します。



* EAN-8 を EAN-13 に変換しない



* UPC-A ナンバーシステムを送信する



UPC-A ナンバーシステムを送信しない



* UPC-A MFR #を送信する



UPC-A MFR #を送信しない



* UPC-A ITEM #を送信する



UPC-A ITEM #を送信しない



* EAN-8 チェック・デジットを送信する



EAN-8 チェック・デジットを送信しない



* EAN-13 チェック・デジットを送信する：スキャナはEAN-13 チェック・デジットを送信します。



EAN-13 チェック・デジットを送信しない

コードフォーマット

Codabar フォーマット



Codabar スタート/ストップキャラクタを送信する：各バーコードの前後に、Codabar のスタート/ストップキャラクタを送信します。



* Codabar スタート/ストップキャラクタを送信しない



* ノーマルの Codabar スタート/ストップキャラクタ



小文字の Codabar スタート/ストップキャラクタ送信を有効にする



CLSI 編集を有効にする：14桁のCodabarタイプの長さでのみ稼働します。このオプションは、情報をホストに送信する前にCLSIタイプの編集を行います。



* CLSI 編集を無効にする



Codabar Mod-16 チェック・デジットを有効にする



* Codabar Mod-16 チェック・デジットを無効にする



Codabar 「7-Check」 チェック・デジットを有効にする



* Codabar 「7-Check」 チェック・デジットを無効にする



* Codabar チェック・デジットを送信する



Codabar チェック・デジットを送信しない

コードフォーマット

Code 39 フォーマット



Code 39 でMod 43 チェック・デジットを送信する：この機能は 4 ページの「Code 39 でMOD 43 チェック・デジットを有効にする」のオプションと合わせて使用します。この機能の使用にはどちらのオプションも有効になっている必要があります。



* Code 39 で Mod 43 チェック・デジットを送信しない



Code 39 スタート/ストップキャラクタを送信する：スキャナは各バーコードの前後に、Code 39 のスタート/ストップキャラクタを送信します。



* Code 39 スタート/ストップキャラクタを送信しない



イタリアの医薬品の場合、「A」(41H)プレフィックスを送信する



* イタリアの医薬品の場合、「A」(41H)プレフィックスを送信しない

Code 11 フォーマット



Code 11 チェック・デジットを送信する：このバーコードは9 ページの「Code 11 を有効にする」と合わせて使用した場合、Code 11 チェックキャラクタを送信します。



* Code 11 チェック・デジットを送信しない

Telepen



Telepen ^L から E の変換を有効にする



* Telepen ^L から E の変換を無効にする

コードフォーマット

Plessey



UK Plesseyのチェック・デジットを送信する：スキャナはUK Plesseyチェック・デジットキャラクターを送信します。これはUK Plesseyオプションとともに使用する必要があります。



* **UK Plessey のチェック・デジットを送信しない**



UK Plessey 特殊フォーマットを有効にする



UK Plessey 特殊フォーマットを無効にする



MSI Plessey チェック・デジットを送信する：このオプションは、10 ページの「MSI Plessey を有効にする」オプションのうち1つ、または両方とともに使用します。



* **MSI Plessey チェック・デジットを送信しない**

2 of 5 コードフォーマット



ITFでMod 10 チェック・デジットを送信する：スキャナはinterleaved 2 of 5 (ITF) Mod 10 チェックキャラクターを送信します。



* **ITFでMod 10 チェック・デジットを送信しない**：ITFでMod 10 チェックとともに稼働します。この機能を稼働させるにはどちらも有効になっている必要があります。



Matrix 2 of 5 チェック・デジットを送信する



* **Matrix 2 of 5 チェック・デジットを送信しない**



* RS232 モードを有効にする：スキヤナはRS232 +/-12Vシリアル出力を容認します。

パリティの機能

パリティビット (PBIT) はデータ送信エラーのキャッチを容易にする追加データビットです。スキヤナのパリティはホストのパリティと一致しなければなりません。



パリティなし



奇数パリティ：ビットの1の数を奇数個にするため、パリティビットの設定を1または0のどちらかに選択します。



* 空白パリティ：パリティビットの設定を常に0にします。



偶数パリティ：ビットの1の数を偶数個にするため、パリティビットの設定を1または0のどちらかに選択します。



マークパリティ：マークパリティは常にパリティビット1を選択します。

ボーレート (通信速度)



ボーレート 115200 (Voyagerでは使用できません)



ボーレート 57600 (Voyagerでは使用できません)



ボーレート 38400



ボーレート 19200



ボーレート 14400



* ボーレート 9600



ボーレート 4800

ボーレート



ボーレート 2400



ボーレート 1200



ボーレート 600



ボーレート 300

データ/ストップビット



8 データビット：各キャラクタに対して送信されたデータビットの数



* 7 データビット



1 ストップビット



* 2 ストップビット

ハードウェアのハンドシェーク



RTS/CTSハンドシェークを有効にする：Request to Send (RTS) シグナルを出力し、Clear to Send (CTS) シグナルを待機してからデータを送信します。



* RTS/CTS ハンドシェークを無効にする



* RTS/CTSキャラクタ：各キャラクタのRTSシグナルを稼働/停止します。



メッセージRTS/CTS：最初のキャラクタ送信前にRTSを稼働し、最後のキャラクタ送信まで稼働状態を維持します。

ハードウェアのハンドシェーク



RTSポラリティを反転する (RSV1)
-12V = 稼働 +12V = 停止



* **スタンダードRTSポラリティ** : スタンダードRTS ポラリティを使用します。
-12V = 停止 +12V = 稼働



CTS ポラリティを反転する (RSV2)
-12V = 稼働 +12V = 停止
送信 OK 送信しない



* **スタンダード CTS ポラリティ**
-12V = 停止 +12V = 稼働
送信しない 送信 OK



RTS を稼働、CTS を待機しない (RSV3) : 送信のため RTS を稼働しますが CTS を待機しません。



* **RTS を稼働、CTS を待機する** : RTS を稼働し、CTS を待機します。



RTSの前にCTS Not Presentをテストする (RSV4) : CTSが既にある場合、RTSを稼働しません。



* **RTS の前に CTS Present をテストしない**



DTRサポートを有効にする : スキャナは *Data Terminal Ready* (DTR) シグナルが停止すればスキャンをストップします。



* **DTR サポートを無効にする**



RTSカウンター切り替えを有効にする : スキャナはデコードが成功すればRTSラインに切り替えます。



* **RTS カウンター切り替えを無効にする**



XON/XOFF ハンドシェークを有効にする : XOFF (ASCII 13H) を受信するとスキャナは送信を停止します。XON (ASCII 11H) を受信後、送信は再開されます。



* **XON/XOFF ハンドシェークを無効にする**

ソフトウェアのハンドシェーク



ACK/NAK を有効にする：データ送信後、ホストからの ACK (06H) または NAK (15H) 応答を待機します。ACK を受信すると、通信サイクルを完了してさらにバーコードを受け付けます。NAK を受信すると、バーコードデータの最終セットを再送信し、再び ACK/NAK を待機します。



* **ACK/NAK を無効にする**



ACK/NAK の BEL/CAN をサポートする：BEL (07H) を受信すると、スキャナは 3 回ブザーを鳴らし、通信ループから退出します。CAN (18H) を受信すると、スキャナは無音で通信ループから退出します。



* **ACK/NAK の BEL/CAN を無視する**：通信ループで BEL/CAN キャラクタを無視します。



ACK/NAK タイムアウトで 5 回の再試行を有効にする：通信ループから退出する前に、データの NAK 再送信を 5 回まで許可します。



* **ACK/NAK タイムアウトで 5 回の再試行を無効にする**



5 回の NAK 再試行を有効にする：NAK を受信するとデータの再送信を 5 回まで許可します。



* **5 回の NAK 再試行を無効にする**



GLS ハンドシェークを有効にする：ACK 確認応答のJV を受信します。その後 ACK は許可されませんが、NAK および、有効な追加 ACK/NAK プロトコルキャラクタは許可されます。



* **GLS ハンドシェークを無効にする**

その他



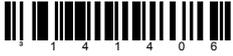
フランス語PC用語を有効にする：スキャナはASCIIデータキャラクタの代わりにPCタイプのmake/breakスキャンコードを送信します。スキャンコードはWYSEフランス語PC用語に合います。



* フランス語 PC 用語を無効にする



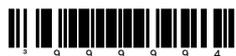
NCR スキャナのみ使用のコマンドを有効にする



* NCR スキャナのみ使用のコマンドを無効にする

キーボード

キーボード・エミュレーションを有効にする



キーボードウェッジのデフォルトを読み込む：キーボードウェッジ・モードのデフォルト設定を読み込みます。



スタンドアローン・キーボードエミュレーションを有効にする：外部キーボードに連結していない特殊なスタンドアローンの機種に使用します。このバーコードを読み込んでスタンドアローンモードを有効にします。スキャナはキーボード「電源オン」の情報を送信し、常時キーボード接続とみなすようハードウェアを設定します。



* キーボードウェッジ・エミュレーションを有効にする：外部キーボードとともに使用します。バーコードデータがないとき、標準PCキーボードでの通信を許可するため、ウェッジモードで送信します。

各国 / スキャンコード表の選択



* 米国キーボード



スイスキーボード



スペインキーボード



イタリアキーボード



ドイツキーボード



フランスキーボード



英国キーボード

キーボード

各国 / スキャンコード表の選択



ベルギーキーボード



日本キーボード



IBM 4700 ファイナンシャルキーボード



スウェーデン / フィンランドキーボード



スロベニアキーボード

キーボード / システムタイプ



* AT キーボード : IBM PS/2 および互換機種 50、55、60、80 を含みます。



XTキーボード : Voyagerの特別ファームウェアです。



PS/2 キーボード : IBM PCおよび互換機種 30、70、8556 を含みます。



端末キーボード・エミュレーションを有効にする



モード1用XTキーボードを有効にする : Voyagerの特別ファームウェアです。



モード2用XTキーボードを有効にする : Voyagerの特別ファームウェアです。

キーボード

ダム端末の選択

注意：以下の端末にはカスタム・ケーブルが必要になる場合があります。



IBM 端末キーボード



予備端末キーボード#2



予備端末キーボード#3



予備端末キーボード#4



予備端末キーボード#5



予備端末キーボード#6



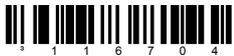
予備端末キーボード#7



予備端末キーボード#8



小文字ロック・オン：データをすべて小文字で送信します。



* 小文字ロック・オフ



スペイン語キーボードの Ñ の代用：2つのキャラクタを以下のように代用します。# Ñ、^ ñ



* スペイン語キーボードの Ñ の代用なし

キーボード

特殊キーボード機能



Make コードのみ送信する：機種によってはご利用いただけません。



* **Make/Breakコードを送信する**：機種によってはご利用いただけません。



* **FOH Breakコードを送信する**：スキャナはBreakコードのシーケンスでFOHを送信します。



FOH Break コードを送信しない



クリーンアップ・ビットを送信する：特定の NEC のコンピュータに使用します。



* **クリーンアップ・ビットを送信しない**



Alt モードを有効にする：下記「ALT モードを有効にする（ノーマル）」の記載を参照してください。



* **Alt モードを無効にする**：注意：ホストのソフトウェアアプリケーションが右 Alt キーを「ホット」キーとして使用している場合、Alt モードは無効にしてください。

† 以下の設定は上記の Alt モードが有効の場合にのみ適用されます。



* **Alt モードを有効にする（ノーマル）** †
スキャナは次のキーボードシーケンスを繰り返します。「Alt キーを押し、任意のキャラクタに対応する 3 桁の 10 進数をタイプします。」



* **Alt モードを有効にする（高度）** †
スキャナは次のキーボードシーケンスを繰り返します。「Alt キーを押し、任意のキャラクタに対応する 4 桁の 10 進数をタイプします。」



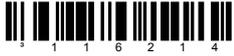
自動検知モード（AT/PS2）を有効にする：自動的に Caps Lock の状態を検知します。



* **自動検知モード（AT/PS2）を無効にする**

キーボード

特殊キーボード機能



Caps Lock を有効にする (XT)



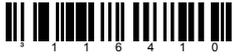
* Caps Lock を無効にする (XT)



キーボードデータとして数字を送信する：すべてのデータはキーボードで入力されたものとみなして送信されます。



* ノーマルデータとして数字を送信する



予備の機能を有効にする



* 予備の機能を無効にする



* 拡張キーコード送信に拡張ASCIIを使用する：F1 やF2 などのPCキーボード・キーの送信に拡張ASCIIキャラクタを使用します。



拡張ASCII>として拡張ASCIIキャラクタを使用する：Altモード経由で拡張ASCIIコードを送信します。



* キャラクタ KB 禁止



メッセージ KB 禁止



右 Alt キー・シーケンスを有効にする



右 Alt キー・シーケンスを無効にする



LaCaixa 特殊キーボード・プレフィックス&サフィックス・スキャンコードを有効にする



* LaCaixa 特殊キーボード・プレフィックス&サフィックス・スキャンコードを無効にする

キーボード

インタースキャン・コード遅延



* **インタースキャン・コード遅延 800 ミリ秒**：指定された時間は個々の 11 ビットのスキャンコードの間隔を表します。特定の PC キーボード BIOS を操作する場合、このパラメータを調整する必要があります。



インタースキャン・コード遅延 7.5 ミリ秒：指定された時間は個々の 9 ビットのスキャンコードの間隔を表します。特定の PC キーボード BIOS を操作する場合、このパラメータを調整する必要があります。



インタースキャン・コード遅延 15 ミリ秒：指定された時間は個々の 11 ビットのスキャンコードの間隔を表します。特定の PC キーボード BIOS を操作する場合、このパラメータを調整する必要があります。



~ **可変インタースキャン・コード遅延ミリ秒**：2 ページのマルチコード方式を参照してください。100 ミリ秒単位で設定できます。

コントロールセット

通常、スタンダード・バーコードは ASCII キャラクタセットのみエンコードします。IBM 互換キーボードでは、ファンクションキー、矢印キー、その他多くの拡張キーは ASCII キャラクタに変換されません。拡張キーをバーコード化する方法の 1 つとして、特定の ASCII コントロールキャラクタがバーコードのストリームにある場合、拡張キーコードを代用して使う方法があります。コントロールセットは ASCII (HEX) セットの特異な変換となります。

コントロールセット#1



コントロールセット#1 を有効にする



* **コントロールセット#1 を無効にする**

キーボード

コントロールセット#1

ASCII (HEX)	ASCII コントロール	拡張キー
00H	Null	数字キーパッド+ (プラス記号)
01H	SOH	Num Lock
02H	STX	下向き矢印
03H	ETX	数字キーパッド- (マイナス記号)
04H	EOT	Insert
05h	ENQ	Delete
06H	ACK	システムリクエスト
07H	BEL	(右矢印)
08H	BS	(左矢印)
09H	TAB	Tab
0AH	LF	Caps Lock
0BH	VT	Shift Tab
0CH	FF	左 Alt
0DH	CR	Enter
0EH	SO	左 Control
0FH	SI	上向き矢印
10H	DLE	F1
11H	DC1	F2
12H	DC2	F3
13H	DC3	F4
14H	DC4	F5
15H	NAK	F6
16H	SYN	F7
17H	ETB	F8
18H	CAN	F9
19H	EM	F10
1AH	SUB	Home
1BH	ESC	Esc
1CH	FS	Page Up
1DH	GS	Page Down
1EH	RS	Print Screen
1FH	US	End

OCIA



OCIAモードを有効にする：通信要件がOCIA（光結合インターフェース）の場合、このオプションを選択します。ホストはこのシリアルインターフェースを記録します。



OCIA デフォルトを読み込む



DTS/Siemens を有効にする



* **DTS/Nixdorf を有効にする**



NCR-S を有効にする



NCR-F を有効にする



* **OCIA NCR-S モードで送信中に非 UPC コードを持つキャラクタカウントを送信する**



OCIA NCR-S モードで送信中に非 UPC コードを持つキャラクタカウントを送信しない

ライトペン・パラメータ



ライトペンモードを有効にする：スキャナがライトペンの代わりに使用される場合、このオプションを選択します。スキャンされた各バーコードにライトペンエミュレーションを行います。



* **高いバー**



高いスペース



Code 39 として送信する：すべてのバーコードはデコードされ、Code 39 のバーコードとして送信されます。



* **スキャンされたままで送信する**：すべてのバーコードはデコードされ、そのままのシンボルで送信されます。



ライトペンの電源をチェックする：スキャナはデータ送信の前に有効な電源電圧を待機します。



* **ライトペンの電源をチェックしない**



反転IDLE/Extraの切り替えを有効にする：スキャナはブザーを鳴らし、デコーダーをチェックする追加データパルスでライトペン・データラインに切り替えます。



* **反転 IDLE/Extra の切り替えを無効にする**



RTS ラインの事前送信切り替えを有効にする



* **RTS ラインの事前送信切り替えを無効にする**

ライトペン・パラメータ

細エレメント幅の設定



10x 細エレメント・ボーダー：10x ボーダーを使用したライトペン / Wand エミュレーションの送信を許可します。



* **50x 細エレメント・ボーダー**：50x ボーダーを使用したライトペン / Wand エミュレーションの送信を許可します。



* **1 ミリ秒細エレメント幅**：1 ミリ秒の細エレメント幅でライトペン / Wand エミュレーションの送信を許可します。



60 マイクロ秒細エレメント幅



100 マイクロ秒細エレメント幅



500 マイクロ秒細エレメント幅



~ **可変の細エレメント幅**：6 マイクロ秒単位で最小X寸法を設定します。このバーコードをスキャンし、続いて70 ページの3桁のコードバイトシーケンスをスキャンします。

MS9520/9540-00 レーザー・エミュレーション・モード

ハンドヘルド・レーザー・エミュレーションモードを有効にする

MS9520-00 および MS9540-00 は、工場出荷時にデフォルトでレーザー・エミュレーション・インターフェースが有効になっていません。

スキャナを再設定中にデフォルトを呼び戻す場合は、以下のバーコードをスキャンしてレーザー・エミュレーション・インターフェースを再び有効にしてください。この機能は MS9520-00 および MS9540-00 のみ対応しています。

HH レーザー・エミュレーションを有効にする



ホストコントロールのレーザー・エミュレーションが必要な場合は、上記の「HH レーザー・エミュレーションを有効にする」をスキャンした後で、次のバーコードをスキャンしてください。

ホストコントロールのレーザー・エミュレーションを有効にする



ノーマルのレーザー・エミュレーション・モーター・アイドル状態



反転レーザー・エミュレーション・モーター・アイドル状態

IBM® 46xxの設定

IBM ポート



IBM 46xxの通信を有効にする : IBM 46xx SIOC/RS485 の通信に使用します。スキャナによってはこのインターフェースに対応していません。適切なインターフェース・ボードが必要です。



IBM 46xx のデフォルトを読み込む : IBM 46xx システムのデフォルトフォーマット設定を読み込みます。



IBM ポート 17B 3687-2 イン・カウンター



IBM ポート 5B 1520 HH レーザー



* **IBM ポート 9B 4500 CCD HH BCR1**



IBM ポート 9B 4501 CCD HH BCR2



* **IBM 46xx と RS232 の CTS 選択を無効にする**



CTS = -12V のとき IBM 46xx の通信を有効にし、CTS = +12V のとき RS232 の通信を有効にする

IBM 予備コード



IBM 予備#1



IBM 予備#2



IBM 予備#3



IBM 予備#5

USB

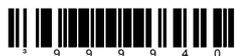


USB インターフェースを有効にする◆



低速の USB デフォルトを有効にする◆

- ◆ これらの機能は低速 USB 装置が内蔵されていないメトロロジック・スキャナに限定されます。以下のバーコードは MX009 経由で通信ができるようにスキャナを設定します。



内蔵の高速 USB キーボード・エミュレーション・デフォルトを読み込む



内蔵の高速 USB IBM/OEM デフォルトを読み込む



内蔵の低速 USB OPOS デフォルトを読み込む：特殊なソフトウェアバージョンの搭載された内蔵低速 USB インターフェースのスキャナに限定されます。



IBM OEM スキャナ 4B00h ハンドヘルド：高速 USB のみ



IBM OEM スキャナ 4A00h フラットベッド：高速 USB のみ



* USB キーボード・エミュレーションモードを有効にする



単方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にする

メトロロジック 9500/5100/4125 クラスの製品で単方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にします。

メトロロジック Focus/Imager クラスの製品で双方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にします。



双方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にする

メトロロジック 9500/5100/4125 クラスの製品で双方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にします。

Focus/Imager クラスの製品では対応していません。



スキャナを再設定中に「デフォルト」バーコードをスキャンすると、スキャナの設定はデフォルト設定の「USB キーボード・エミュレーションモード」に戻ります。適切なシリアル・エミュレーションモードを有効にするには、「単方向」もしくは「双方向 USB シリアル・エミュレーションモード」バーコードを再びスキャンしてください。

USB



バーコード ID を有効にする



バーコード ID を無効にする



USB 予備コード#1 を有効にする



USB 予備コード#1 を無効にする



USB 予備コード#2 を有効にする



USB 予備コード#2 を無効にする



USB デフォルトを記憶する



Aux デフォルトを記憶する



IBM 1520 コードフラッグ・エミュレーションを有効にする : UPCコードIDとITFコードIDは同じですが、その他のコードIDはCode39 (IBM OEMスキャナモード) として送信されます。



IBM 1520 コードフラッグ・エミュレーションを無効にする

コードバイトの使用方法

 以下のコードバイトを使用する機能を設定する場合は、スキャナを「設定モード」にする必要があります。設定サイクルを開始する前に、2 ページの「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンしてください。

例： ユーザー設定が可能なプレフィックス/サフィックスのキャラクタは、ASCII キャラクタに相当する 3 桁の 10 進数をコードバイト・バーコードとともに適切なキャラクタロケーションにスキャンして、スキャナに保存できます。

プレフィックスとしてアスタリスク (*) を追加するには、次の順番でバーコードをスキャンしてください。

1. 「設定モード開始/終了」 (ブザー音 3 回)
2. 「設定可能なプレフィックス#1」 (ブザー音 1 回)
3. 「コードバイト 0」 (ブザー音 1 回)
4. 「コードバイト 4」 (ブザー音 2 回)
5. 「コードバイト 2」 (ブザー音 3 回)
6. 「設定モード開始/終了」 (ブザー音 3 回)

コードバイト 0~9



コードバイト 0



コードバイト 1



コードバイト 2



コードバイト 3



コードバイト 4



コードバイト 5



コードバイト 6



コードバイト 7



コードバイト 8



コードバイト 9

コードバイトの使用法

予備コード



~ 予備コードを有効にする：この機能の情報に関してはメトロロジックにご連絡ください。



~ 予備コードを無効にする

コードタイプ表

コードバイト	コードタイプ
004	UPC-A
002	UPC-E
003	EAN-8
005	EAN-13
080	Code 39
081	Codabar
082	Interleaved 2 of 5
083	Code 128
084	Code 93
091	MSI Plessey
092	Code 11
093	Airline 2 of 5 (15 桁)
094	Matrix 2 of 5
095	Telepen
096	UK Plessey
099	TRI-OPTIC
098	Standard 2 of 5
097	Airline (13 桁)

コードバイトの使用方法

ASCII 参照表

HEX 値	10 進値 / コードバイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
00	000	NUL	@
01	001	SOH	A
02	002	STX	B
03	003	ETX	C
04	004	EOT	D
05	005	ENQ	E
06	006	ACK	F
07	007	BEL	G
08	008	BS	H
09	009	HT	I
0A	010	LF	J
0B	011	VT	K
0C	012	FF	L
0D	013	CR	M
0E	014	SO	N
0F	015	SI	O
10	016	DLE	P
11	017	DC1	Q
12	018	DC2	R
13	019	DC3	S
14	020	DC4	T
15	021	NAK	U
16	022	SYN	V
17	023	ETB	W
18	024	CAN	X
19	025	EM	Y
1A	026	SUB	Z
1B	027	ESC	[
1C	028	FS	\

コードバイトの使用方法

ASCII 参照表

HEX 値	10 進値 / コードバイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
1D	029	GS	^
1E	030	RS	_
1F	031	US	スペース、ブランク
20	032	SP	
21	033	!	
22	034	"	
23	035	#	
24	036	\$	
25	037	%	
26	038	&	
27	039	'	アポストロフィ
28	040	(
29	041)	
2A	042	*	
2B	043	+	
2C	044	,	コンマ
2D	045	-	マイナス
2E	046	.	ピリオド
2F	047	/	
30	048	0	数字 0
31	049	1	数字 1
32	050	2	
33	051	3	
34	052	4	
35	053	5	
36	054	6	
37	055	7	
38	056	8	
39	057	9	
3A	058	:	
3B	059	;	

コードバイトの使用方法

ASCII 参照表

HEX 値	10 進値 / コードバイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
3C	060	<	以下
3D	061	=	
3E	062	>	以上
3F	063	?	
40	064	@	Shift P
41	065	A	
42	066	B	
43	067	C	
44	068	D	
45	069	E	
46	070	F	
47	071	G	
48	072	H	
49	073	I	文字 I
4A	074	J	
4B	075	K	
4C	076	L	
4D	077	M	
4E	078	N	
4F	079	O	文字 O
50	080	P	
51	081	Q	
52	082	R	
53	083	S	
54	084	T	
55	085	U	
56	086	V	
57	087	W	
58	088	X	
59	089	Y	

コードバイトの使用方法

ASCII 参照表

HEX 値	10 進値 / コードバイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
5A	090	Z	
5B	091	[Shift K
5C	092	\	Shift L
5D	093]	Shift M
5E	094	^	à、Shift N
5F	095	_	♣、Shift O、アンダースコア
60	096	`	アクセント記号
61	097	a	
62	098	b	
63	099	c	
64	100	d	
65	101	e	
66	102	f	
67	103	g	
68	104	h	
69	105	i	
6A	106	j	
6B	107	k	
6C	108	l	
6D	109	m	
6E	110	n	
6F	111	o	
70	112	p	
71	113	q	
72	114	r	
73	115	s	
74	116	t	
75	117	u	
76	118	v	
77	119	w	
78	120	x	

コードバイトの使用方法

ASCII 参照表

HEX 値	10 進値 / コードバイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
79	121	y	
7A	122	z	
7B	123	{	
7C	124		縦スラッシュ
7D	125	}	alt モード
7E	126	~	(alt モード)
7F	127	DEL	Delete、Rubout

拡張キーコード参照表

キー	AT スキャン コード	PS2 スキャン コード	3151	プレフィックス/サフィックス値 Hex = 10 進値
	75H	48H	63H	80H = 128
	72H	50H	60H	81H = 129
	74H	4DH	6AH	82H = 130
	6BH	4BH	61H	83H = 131
Insert	70H	52H	67H	84H = 132
Delete	71H	53H	64H	85H = 133
Home	6CH	47H	6EH	86H = 134
End	69H	4FH	00H	87H = 135
Page Up	7DH	49H	00H	88H = 136
Page Down	7AH	51H	00H	89H = 137
右 Alt	11H	38H	00H	8AH = 138
右 Ctrl	14H	1DH	39H	8BH = 139
予備	00H	00H	00H	8CH = 140
予備	00H	00H	00H	8DH = 141
数字キーパッド	5AH	1CH	79H	8EH = 142
数字キーパッド /	4AH	35H	00H	8FH = 143
F1	05H	3BH	07H	90H = 144
F2	06H	3CH	0FH	91H = 145
F3	04H	3DH	17H	92H = 146
F4	0CH	3EH	1FH	93H = 147
F5	03H	3FH	27H	94H = 148
F6	0BH	40H	2FH	95H = 149
F7	83H	41H	37H	96H = 150

コードバイトの使用法

拡張キーコード参照表

キー	AT スキャンコード	PS2 スキャンコード	3151	プレフィックス/サフィックス値 Hex = 10 進値
F8	0AH	42H	3FH	97H = 151
F9	01H	43H	47H	98H = 152
F10	09H	44H	4FH	99H = 153
F11	78H	57H	56H	9AH = 154
F12	07H	58H	5EH	9BH = 155
数字キーパッド +	79H	4EH	00H	9CH = 156
数字キーパッド -	7BH	4AH	7CH	9DH = 157
数字キーパッド *	7CH	37H	00H	9EH = 158
Caps Lock	58H	3AH	14H	9FH = 159
Num Lock	77H	45H	00H	A0H = 160
左 alt	11H	38H	00H	A1H = 161
左 Ctrl	14H	1DH	11H	A2H = 162
左 Shift	12H	2AH	12H	A3H = 163
右 Shift	59H	36H	59H	A4H = 164
Print Screen	Multiple	00H	00H	A5H = 165
Tab	ODH	OFH	0DH	A6H = 166
Shift Tab	8DH	8FH	65H	A7H = 167
Enter	5AH	1CH	5AH	A8H = 168
ESC	76H	01H	08H	A9H = 169
左 ALT Make	11H	36H	00H	AAH = 170
左 ALT Break	11H	B6H	00H	ABH = 171
左 CTRL Make	14H	1DH	00H	ACH = 172
左 CTRL Break	14H	9DH	00H	ADH = 173
*左 ALT + 1 キャラクタ	11H	36H	00H	AEH = 174
*左 Ctrl + 1 キャラクタ	14H	1DH	00H	AFH = 175
*Send			58H	C0H = 192
Clear			6FH	C1H = 193
Jump			76H	C2H = 194
Send Line			7EH	C3H = 195
Erase EOF			6DH	C4H = 196
Send - Make のみ			58H	C5H = 197

*例 :

- 1 桁目の設定可能なプレフィックス = 174
 - 2 桁目の設定可能なプレフィックス = 065
- スキャナは<左 ALT Make>「A」<左 ALT Break>を送信します。

MS9520 Voyager® & MS9540 VoyagerCG®シリーズ

稼働範囲

以下のバーコードを使用して、スキャンフィールドに対象物を検知した場合の赤外線（IR）センサの稼働範囲を選択します。



* スタンド上で長い範囲



スタンド上で短い範囲



* スタンド取り外し状態で長い範囲



スタンド取り外し状態で短い範囲

スタンドスキャン・モード



スタンド上で短波スキャン：スタンド取り付け状態でスキャンする場合、スキャナは短波赤外線でのみバーコードを受け付けます。



* スタンド上でノーマルスキャン

CodeGate®の状態

以下のバーコードはボタン機能の操作に使用します。

注意：以下の機能は MS5145 のすべてのバージョンで対応しているわけではありません。



スタンド上で CodeGate 稼働



* スタンド上で CodeGate 停止



* スタンド取り外し状態で CodeGate 稼働



スタンド取り外し状態で CodeGate 停止

MS9520 Voyager® & MS9540 VoyagerCG®シリーズ

レーザー / スキャン・モード



* **ノーマルスキャン**：赤外線がバーコードを検知した後、レーザーが稼働します。レーザーは約 3 秒から 10 秒間稼働状態を維持します。



点滅スキャン：赤外線がバーコードを検知した後、レーザーが稼働します。レーザーは約 60 秒間オンオフを繰り返して点滅します。



連続点滅スキャン：レーザーは点滅を繰り返し、赤外線は非稼働状態となります。この機能は VoyagerPDF シリーズでは利用できません。



カスタム (1 度限り) スキャン：レーザーは一度デコードに成功した後で稼働します。



マニュアル稼働モードを有効にする：レーザーは CodeGate ボタンが押されると稼働します。



* **ノーマル・タイムアウト (ボタンで稼働)**



0.5 秒タイムアウト (ボタンで稼働)

注意：MS9520 (Rev H およびそれ以降) は限定された PDF スキャン / デコード機能が搭載されています。バーコードの設定は、MS9524 & MS3544 VoyagerPDF シリーズの章を参照してください。MS9544 や MS9524 とは異なり、PDF の読み込みは工場出荷デフォルトではなく、使用前にこの機能を有効にする必要があります。

MS9520 Voyager® & MS9540 VoyagerCG®シリーズ

同一シンボル・タイムアウト

MS5145 Eclipse、MS9524、MS9544 VoyagerPDFをご使用の場合、28ページを参照してください。



同一シンボル・タイムアウトなし



1000 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



* 875 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



750 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



625 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



500 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



375 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト

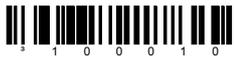


250 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



同一シンボル・タイムアウトが無限

MS9524 & MS9544 VoyagerPDF®シリーズ



* PDF を有効にする



PDF を無効にする



* 音声標識を有効にする



音声標識を無効にする

PDF CodeGate の状態



スタンド上で PDF CodeGate を有効にする



* スタンド上で PDF CodeGate を無効にする



スタンド取り外し状態で PDF CodeGate を有効にする



* スタンド取り付け状態で PDF CodeGate を無効にする

MicroPDF および合成コードの取り扱い



Micro PDF を有効にする : 合成シンボルのスキャンを許可します。(PDF 417 はデフォルトで有効)



* Micro PDF を無効にする

MS9524 & MS9544 VoyagerPDF®シリーズ



* 2次元 RSS の連結を有効にする：2次元の部分のスキャンせず、1次元 RSS を送信します。



2次元 RSS の連結を無効にする



UPC/EAN の連結を有効にする：UPC/EAN のシンボルと2次元合成の構成要素とを連結してから送信します。



* UPC/EAN の連結を無効にする



* Code 128 の連結を有効にする：2次元の部分のスキャンせず、1次元 Code 128 を送信します。



Code 128 の連結を無効にする



* 1次元PDFの連結を有効にする：1次元の部分のスキャンせず、PDF-417の2次元部分を送信します。



1次元 PDF の連結を無効にする



* 1次元UPDFの連結を有効にする：1次元の部分のスキャンせず、MicroPDFの2次元部分を送信します。



1次元 UPDF の連結を無効にする



* ノーマルの合成Xmit：1次元と2次元の合成の構成要素部分を常に別々に送信します。



Xmit 合成の分離：1次元と2次元の合成の構成要素部分を別々に送信します。



EAN-128 エミュレーションを有効にする：UCC/EAN128 プロトコルを送信目的で使用します。



* EAN-128 エミュレーションを無効にする

同一シンボル・タイムアウトの情報は28ページを参照してください。

MS9535 VoyagerBT®

MS9535 がその他の Bluetooth デバイス (000CA700118 のように、アドレスが FNC3 で始まらず、通常の 12 桁の hex 値を持つデバイス) のクライアントとして稼働している場合、まず「Bluetooth アドレス入手」のコードをスキャンし、次にそのデバイスのアドレスバーコードをスキャンしてください。

Bluetooth アドレス入手



「Bluetooth サービス供給」バーコードをスキャンし、MS9535 をサービスモードにしてください。このモードでは、Bluetooth が使用可能な他のデバイスがスキャナへの接続を開始できるようになります。

Bluetooth サービス供給



Bluetooth ピンが必要 : Bluetooth が使用可能なデバイスと通信接続を開始するには、MS9535 は有効な Bluetooth ピンが必要です。



* **Bluetooth ピン必要なし**



Bluetooth ピンのデフォルト値 : デフォルトのピン ID はシリアルナンバーの最後の 4 桁です。



次のバーコードが Bluetooth ピン : この機能が有効になると、スキャナは次にスキャンされるバーコードを Bluetooth ピン ID として保存します。Bluetooth ピン ID は数値で 4 桁でなければなりません。

ピン ID を使用するには上記の「Bluetooth ピンが必要」のバーコードをスキャンする必要があります。



Bluetooth アドレスの送信を有効にする



Bluetooth ソフトウェアバージョンの送信を有効にする



1 分間でスリープ : レーザーが 1 分間停止状態を継続した後にスキャナはスリープモード (パワーセーブ) に入ります。



2 分間でスリープ : レーザーが 2 分間停止状態を継続した後にスキャナはスリープモード (パワーセーブ) に入ります。



5分間でスリープ：レーザーが5分間停止状態を継続した後に、スキャナはスリープモード（パワーセーブ）に入ります。



10分間でスリープ：レーザーが10分間停止状態を継続した後に、スキャナはスリープモード（パワーセーブ）に入ります。



* **クレードル上でのスキャンを有効にする**



クレードル上でのスキャンを無効にする



スタンド上でのエラー・音声インジケータを有効にする：Bluetooth スキャナがスタンドに置かれた状態であるか、またはクレードル上でバッテリーターミナルに接続していない場合、音声インジケータを稼働します。



* **スタンド上でのエラー・音声インジケータを無効にする**



* **クレードル LED を有効にする**



クレードル LED を無効にする



レンジゲートを有効にする：Bluetooth 接続が中断された場合、スキャンしたバーコードを RAM に保存します。



* **レンジゲートを無効にする**



Bluetooth テストを有効にする：クレードルは所定の接続情報（KO、OK など）を表示します。
 メトロロジックの担当者に指示されない限り、この機能は有効にしないでください。



* **Bluetooth テストを無効にする**



インベントリー・モードを有効にする：スキャンされたバーコードデータはスキャナの拡張メモリベースに格納されます。スキャナが Bluetooth クレードルに戻されたらデータは送信されます。



バーコードをスキャンする際に、メモリベースがフルで格納できない場合、特別なブザー音が鳴ります。その場合メモリを空にするためスキャナを Bluetooth クレードルに戻します。



* **インベントリー・モードを無効にする**



* **自動クレードル送信**：スキャナが Bluetooth クレードルに戻されたらすべてのバーコードデータは自動的に送信されます。



クレードル送信なし：スキャナが Bluetooth クレードルに戻されても、スキャナはバーコードデータを自動送信しません。



* **インベントリーFIFOで送信**：データは先入れ先出しで送信されます。



インベントリーLIFOで送信：データは後入れ先出しで送信されます。



インベントリー・ブザーを有効にする：バーコードが送信されるたびにブザーが鳴ります。データ送信が終わったら特別な音声インジケーターが鳴ります。



* **インベントリー・ブザーを無効にする**



* **送信/入力カウンターなし**



送信/入力カウンター：バーコードデータとともに送信されるオプション・フィールドで、全部のバッファの送信に要した送信数を示します。



インベントリーの記録をクリアする：メモリに保存されたバーコードデータをすべてクリアします。



自動記録消去を有効にする：保存された記録が送信されたらインベントリー・バッファの保存記録を自動的にクリアします。



* **記録を保持する**



最後の記録を削除：最後に記録されたバーコードを削除します。

「送信数量フィールド」が有効の場合、スキャンされた数量コードはそれぞれ独自のフィールドを持ちます。「最後の記録を削除」バーコードをスキャンするとスキャン済み最後の数量コードが消去されます。

例：数量 103（数量 1、数量 0、数量 3）がスキャンされたが、数量 10 が適切な場合

1. 「最後の記録を削除」バーコードをスキャンします。
2. 数量 3 のコードが削除され、数量 10 が保存されます。



すべての記録を送信する：保存されたデータ記録をすべて送信します。



記録カウンターを送信する：記録の数と現在保存されたバーコードの現在の数をスペースで区切った 5 桁の数として送信します。



数量フィールドを送信する：最後にスキャンしたアイテム（バーコード）の数量フィールドを追加します。この機能を有効にすると、ユーザーは最後にスキャンされたアイテム（バーコード）について 1 から 9999 までを入力できます。（詳細は 87 ページのインベントリー数量バーコードを参照してください）



* **数値フィールドを送信しない**

インベントリ-数量バーコード**

以下のインベントリ-数量バーコードにより、ユーザーは、スキャンされた最後のアイテム（バーコード）について数量 1 から 9999 までを入力できます。アイテムのバーコードデータは「数量」が示す数だけ再送信されます。

例:

1. アイテムのバーコードをスキャンします。（ABCD など）
2. 「数量 1」のバーコードをスキャンします。
3. 「数量 0」のバーコードをスキャンします。
4. ABCD バーコードは 10 回送信されます。



数量 0



数量 1



数量 2



数量 3



数量 4



数量 5



数量 6



数量 7



数量 8



数量 9

** この機能を使用するために86 ページの「送信数量フィールド」を有効にしてください。

IS4125 / IS4225 スキャンエンジン



古いシリアルプログラムを無効にする



古いシリアルプログラムを有効にする



TTL UART を有効にする



非バッファ TTL UART を有効にする



検知および通知モードを有効にする



Cunninghamデフォルト：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンするとCunninghamデフォルトが読み込まれ、有効になります。



デフォルト

同一シンボル・タイムアウトについては、80ページを参照してください。

その他の機能

カスタム・デフォルト

メトロロジックはOEMアプリケーションに対応したスキャナも製造しています。それらのスキャナはメトロロジックの工場出荷デフォルトとは異なったデフォルト設定を使用している場合があります。以下のバーコードをスキャンすると、メトロロジックのデフォルトに再設定できます。



工場出荷デフォルトを有効にする：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、メトロロジックの工場出荷デフォルトが読み込まれ、有効になります。



デフォルト



Ruby Verifoneデフォルト：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Ruby Verifoneのデフォルトが読み込まれ、有効になります。



RCH：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、RCHのデフォルトが読み込まれ、有効になります。



Sanyo：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Sanyoのデフォルトが読み込まれ、有効になります。



Gilbarco：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Gilbarcoのデフォルトが読み込まれ、有効になります。



ALT デフォルト：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Altのデフォルトが読み込まれ、有効になります。



LaCaixa カスタムキーボード・デフォルト：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、LaCaixaのデフォルトが読み込まれ、有効になります。



ABACAB デフォルト：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、ABACABのデフォルトが読み込まれ、有効になります。

シリアルプログラム・モード

シリアルプログラム・モードでは、すべてのコマンドは STX (02 Hex) と ETX (03 Hex) で囲まれていなければなりません。

デフォルト呼び戻しは以下の通りです。

1. シリアルポートを通じて<STX>999999<ETX>を送信します。これでスキャナはシリアルプログラム・モードになります。スキャンングは一時停止し、スキャナは ACK (06 Hex) と応答します。
2. シリアルポートを通じて<STX>999998<ETX>を送信します。これは MetroSelect ガイドにある「デフォルト」バーコードです。スキャナは ACK (06 Hex) と応答します。
3. シリアルポートを通じて<STX>999999<ETX>を送信します。これでスキャナはプログラムモードから出て新しい設定を保存します。スキャナはブザーを 3 回鳴らし、ACK (06 Hex) を送信します。

スキャナがコマンドを認識できないときは常時 NAK (15 Hex) と応答します。シリアルプログラム・モードの詳細は、スキャナの設定およびユーザーガイドをご覧ください。

各国の本部

Metrologic Instruments, Inc.

90 Coles Road Blackwood, NJ 08012-4683

Email: info@metrologic.com • Tel: 856-228-8100

Fax: 856-228-6673 (Sales) • Fax: 856-228-1879 (Marketing) • Fax: 856-228-0653 (Legal/Finance)

Metrologic Companies

Adaptive Optics Associates (AOA)

Tel: 617-806-1400
Fax: 617-806-1899
Email: info@aoainc.com

Omniplanar

Tel: 856.537.6100
Fax: 856.537.6116
Email: info@omniplanar.com

Metrologic - The Americas

Headquarters

Tel: 1.856.537.6400
Fax: 1.856.537.6474
Email: info@us.metrologic.com

Metrologic Canada

Tel: 416.752.7190
Fax: 416.752.8060
Email: info@ca.metrologic.com

Metrologic do Brasil Ltda.

Tel: 55.11.5182.7273
Fax: 55.11.5182.7198
Email: info@sa.metrologic.com

Metrologic Mexico, S.A. DE C.V.

Tel: 55.5365.6247
Fax: 55.5362.2544
Email: info@mx.metrologic.com

Metrologic South America

Tel: 239.642.1958
Fax: 239.642.1959
Email: info@sa.metrologic.com

Metrologic - USA

Tel: 1.856.537.6400
Fax: 1.856.537.6474
Email: info@us.metrologic.com

Metrologic - EMEA

Headquarters

Tel: 49-89-89019-0
Fax: 49-89-89019-200
Email:
info@europe.metrologic.com

Metrologic Eria France SA

Tel: +33 (0) 1 48.63.78.78
Fax: +33 (0) 1 48.63.24.94
Email: info@fr.metrologic.com

Metrologic Eria Iberica, SL

Tel: +34 913 272 400
Fax: +34 913 273 829
Email: info@es.metrologic.com

Metrologic Russia

Tel: +7 095 730 7424
Fax: +7 095 730 7425
Email: info@ru.metrologic.com

Metrologic Instruments GmbH

Tel: 49-89-89019-0
Fax: 49-89-89019-200
Email:
info@europe.metrologic.com

Metrologic Instruments Italia

Tel: +39 0 57 6511978 or +39
051 651 1978
Fax: +39 0 51 6521337
Email: info@it.metrologic.com

Metrologic Instruments Poland

Tel: +48 (22) 545 04 30
Fax: +48 (22) 545 04 31
Email: info@pl.metrologic.com

Metrologic Instruments UK Limited

Tel: +44 (0) 1256 365900
Fax: +44 (0) 1256 365955
Email: info@uk.metrologic.com

Metrologic - APAC

Headquarters

Tel : (65) 6842-7155
Fax : (65) 6842-7166
Email: info@sg.metrologic.com

Beijing Sales Office

Tel/Fax: 86 10 82253472
Email: info@cn.metrologic.com

Chengdu Sales Office

Tel/Fax: 86 28 86200109
Email: info@cn.metrologic.com

Guangzhou Sales Office

Tel: 86-20-38823476
Fax: 86-20-38823477
Email: info@cn.metrologic.com

India Sales Office

Tel: +91 80 51256718
Fax: +91 80 51256719
Email: info@in.metrologic.com

Korea Sales Office

Tel: 82-2-6205-5379
Fax: 82-2-3444-3980
Email:
Scott.lee@kr.metrologic.com

Metrologic Asia (Pte) Ltd

Tel : (65) 6842-7155
Fax : (65) 6842-7166
Email: info@sg.metrologic.com

Metrologic Japan Co., Ltd.

Tel: 81-3-3839-8511
Fax: 81-3-3839-8519
Email: info@jp.metrologic.com

Metrologic Thailand

Tel: 661-814-2352
Email:
tawan.jandang@th.metrologic.com

MTLG Auto ID Instruments (Shanghai) Co.,Ltd

Tel: 86-21-58692780
Fax: 86-21-58692782
Email: info@cn.metrologic.com

Suzhou Sales Office

Tel: 86-512-67622550
Fax: 86-512-67622560
Email: info@cn.metrologic.com

Taiwan Sales Office

Tel: 886-2-2351 0125
Email: john.cheng@tw.metrologic.com

April 2007, Version 01
Printed in the USA



00 - 02544H